

# 令和元年度 城山西小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重」の教育を基礎とし，知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で，思いやりのある豊かな心をもち，確かな学力を身に付けた社会の一員としてたくましく生きる児童を育成する。

- 情操豊かで，おもいやりのある子供（やさしく）
- 自ら学び，よく考える子供（かしこく）
- 健康で，やりぬく子供（たくましく）

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

平成17年度より小規模特認校に指定され，特色ある教育活動を推進してきた結果，学校統廃合の危機を脱することができ，伝統ある学校として存続できている。

今年度も児童数を維持するために，地域連携をキーワードに，「小さな学校だからこそできること」をコンセプトにした本校の特色ある教育活動を推進する。

教職員の積極的な学校経営への参画のもと，第2次宇都宮市学校教育スタンダードの「誰もが安心して学べ，活力あふれる学校」の実現を図るために，城山地域学校園の小中一貫教育における教職員や児童・生徒の交流を生かしながら，「自他を尊重し，郷土に愛着をもち，諸活動を通して互いに高め合う児童生徒の育成」に努めていきたい。

本校の具体的な取り組みとしては，「一人一人を大切に授業」を中心に，5つの公約「会話科の継続・充実」「文化人の先生方との授業実践」「地域との確かな連携」「食農体験を通じた食育の推進」「放課後活動（こがし桜スクール）の運営」を継続しつつ，以下の3点を柱として全教職員で指導に努めていきたい。

- (1) 「会話科」の継続・充実に努め，英会話の時間や外国語活動，ことばの時間で培う表現力やコミュニケーション力を他教科や日常生活に生かせるように努める。特に外国語教育は，中学校への学びの連続性を持たせる指導について研究を推進する。
- (2) 食農体験を基にした「食育」を推進し，地域の協力を得ながら，食と農に関する学習活動や体験活動を展開する。給食農園の食材や地産地消の食材を給食に取り入れ，教職員・児童全員で食する給食の時間を有効利用する。
- (3) 妻木律子先生と連携した「体幹を鍛える運動」や各種運動検定の充実により「体力の向上」を図り，運動を楽しませることを通して生涯体育につなげていきたい。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校・地域・行政が一体となった「新たな学校の創造」を推進するため，教職員の適材適所を図り，本校の実情に即した教育課程の編成と実践に努める。また，教育者としての使命感と愛情をもった教師力の向上に努めるとともに，業務の効率化を図り，労働時間の適正化に努める。 **(学校運営の適正化)**
- (2) 児童一人一人のよさを認め励まし，自己肯定感を育み，居がいのある学校・学級づくりに努める。 **(学級経営の充実)**
- (3) 全教職員の共通理解のもと，児童・保護者と教職員との信頼関係を深め，情操豊かな教育環境と縦割り班における異学年とのかかわりを大切に，他人を思いやるこころ豊かでたくましい児童の育成に努める。 **(豊かなこころの育成)**
- (4) 学力の基礎・基本である読む力・書く力・聞く力・話す力の確実な定着を図り，体験的な学習や問題解決的な学習を通して，学ぶことの楽しさや成就感を体得させ，自ら学び自ら考える力の育成に努める。 **(学習指導の充実)**
- (5) 進んで運動に親しみ継続できるような手立てを工夫するとともに，保健・安全指導の充実に努める。 **(体力向上と保健安全教育の充実)**
- (6) 学校・家庭・地域・行政と連携を密にしながら，小規模特認校として魅力ある開かれた学校づくりに努める。 **(魅力ある学校づくりの推進)**

[城山地域学校園教育ビジョン] とともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

#### 4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」宇都宮市の教育の指針（うつのみや“いきいき学校”プラン-子どもに夢、学校に活力、地域に絆・第2次宇都宮市学校教育スタンダード・宇都宮元気っこプロジェクト）等の示すところに従い、公教育の立場を堅持し本校の教育目標達成のため、調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 児童の生きる力を育むこと・成長するための基盤を培うことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させること、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力を育むことの双方のバランスを考慮して教育課程を編成する。また、家庭での学習習慣が確立できるように家庭との連携を密に図るようにする。
- (3) 道徳性の育成は、「特別の教科道徳」を要として学校教育活動全体を通して行うとともに、家庭・地域社会との連携を深め、児童の発達段階に考慮して適切な指導が行われるよう、教育課程を編成する。また、指導にあたっては「いきいき栃木っ子3あい運動」や「宮っ子の誓い」を通して道徳性が培えるよう工夫する。
- (4) 健やかな心身の育成を図るために、体育・健康に関する指導または学校教育活動全体を通して行うとともに、健康・安全で活力ある生活を営むために必要な資質や能力を育て、児童の心身の調和的な発達が図れるよう教育課程を編成する。
- (5) 創立144年の歴史と伝統と小規模特認校15周年を迎える実績と特色を踏まえ、児童の実態や学校の特色、地域のもつ豊かな教育力を生かして、家庭や地域社会との連携を図りながら、学校の特色を生かした教育課程を編成する。
- (6) 保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深め、連携及び協力が推進できるように学校運営の状況に関する情報を提供するように努める。

#### 5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【 学 校 運 営 】
- ① 職員研修を充実し、教職員の資質向上の推進
  - ② 学校・家庭・地域・行政と一層連携し、小規模特認校としての開かれた特色ある学校づくりの推進
- 【 学 習 指 導 】
- ・確かな学力を身に付け、共に学びあう子どもの育成
  - 家庭学習の習慣化（宿題プラス1）
- 【 児 童 生 徒 指 導 】
- 規範意識を身に付け、自分のよさを生かしながら自信をもって行動する児童の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】
- ・健康・体力の向上を目指し、進んで活動する児童の育成
  - 中学校進学をスムーズに行えるよう、中学校の部活動を見学する機会の確保
  - 集団行動や各種検定など中学校での活動を見据えた、3小学校で共通した取組

#### 6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	<p>A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートの「児童は授業中に話をしっかり聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」</p> <p>⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 「城西小よいこの一日学習編」をもとに、基本的な学習態度について共通理解を図りながら指導に当たる。</p> <p>② 児童の主体的な学びとなる授業展開を工夫する。</p> <p>③ 会話科の授業を充実させ、よく聴き分かりやすく発表する技能を高める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 96.0%</p> <p>保護者の肯定的回答率 92.2%</p> <p>・肯定的回答は昨年とほぼ同じであった。</p> <p>・「城西小よいこの一日学習編」をもとに、保護者や児童・教職員が共通理解をはかりながら指導にあたった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・全国学力学習状況調査を始めとした各種調査結果の分析をもとに、指導にあたっていく。</p>

目 指 す 児 童	<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 道徳の時間の指導を要とし、各教科領域、特に児童指導との連携をとりながら、教職員が共通理解のもとに足並みをそろえて児童の規範意識を高めていく。</p> <p>② 縦割り班での活動や共遊の時間を大切にし、児童同士あるいは児童と教師が豊かな心のふれあいができるようにする。</p> <p>③ 会話科(ことばの時間)等の学習を通して、コミュニケーション力を高め、互いの気持ちを伝えられるようにする。</p> <p>④ 盲学校との交流を継続し、心のふれあいを通して、障がいに対する理解が深められるようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.0% 保護者の肯定的回答率 92.6% 地域住民の肯定的回答率 100.0% ・道徳の授業を中心に、教職員が日常的に児童へ思いやりの心の大切さを伝えてきた。 ・様々な学校行事を通して児童同士が豊かな心のふれあいを感じる体験を積み重ねることができた。特に盲学校との交流では、障害に対して理解を深めるよい機会となっている。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も道徳の授業を中心にしながら、学校教育全体で思いやりの心を育てていく。</p>
姿	<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 「城西小よい子の一日」を見直し、教職員が足並みをそろえて、粘り強く児童を指導していく。</p> <p>② 児童が秩序ある安全な学校生活を送れるように、年間を通して学級の行動目標を決めて指導していく。</p> <p>③ 学級だけでなく週に1度の一斉下校や集会・朝会等の場を活用して、児童のよさを学校全体でほめることで、きまりを守る大切さを理解させ、やる気を引き出していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.9% 保護者の肯定的回答率 93.5% 地域住民の肯定的回答率 95.2% ・「城西小よい子の一日」について教職員が共通理解し、足並みをそろえて児童への指導を重ねてきた。 ・一斉下校や集会など、全校児童が集まる場を適宜利用しながら、乱れがちなきまりやマナーについて確認してきた。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も「城西小よい子の一日」については周知徹底していく。 ・全体の場では良い点を褒めることに重点を置きながら、指導の徹底を図る。</p>
	<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 「いつでも・どこでも・だれにでもさわやかあいさつ」の合い言葉のもと、児童会を中心に城山地域学校園で連携したあいさつ運動を継続する。</p> <p>② 登校指導の場では学校・地域・保護者で連携を図り、子供たちが気持ちよくあいさつができる環境を整え、ともに、あいさつの大切さを伝え、広げていく。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.0% 保護者の肯定的回答率 86.3% 地域住民の肯定的回答率 95.2% ・児童の肯定回答率が昨年度に比べて上回ったのに対し、保護者・地域については肯定回答率が昨年度を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童と地域に比べ、保護者の肯定回答率が低いことから、家庭との連携を強化する。</p>
	<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 漢字や計算、運動の検定や各大会などの教育活動を設定することで、児童が自ら目標を持って、進んで活動できるようにする。</p> <p>② 学期ごとに、学習と生活のめあてを立てて、その達成状況を学期末に振り返る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.9% 保護者の肯定的回答率 80.0% ・児童も保護者も肯定的回答が市の平均を上回ったが、保護者の肯定的回答は目標値に留まった。</p> <p>【次年度の方針】 ・各種便りで検定や大会について取組内容や結果を周知し、学校での取組を保護者にも伝えていく。</p>

<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 「元気っ子生活習慣チェック」を活用し、基本的な生活習慣の定着を図る。</p> <p>② 健康の保持増進を意識した生活を送ることができるよう、定期健康診断の結果を生かした指導や、バランスのとれた食事についてなど具体的な指導に努める。</p> <p>③ 避難訓練や交通安全教室などを計画的に実施し、安全を意識した生活ができるようにしていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.0% 保護者の肯定的回答率 91.2% 地域住民の肯定的回答率 94.4% 教職員の肯定的回答率 95.5%</p> <p>【次年度の方針】 ・「元気っ子生活習慣チェック」を取り組みやすい内容に改善し、よりよい生活習慣の定着を目指す。 ・健康診断の結果を、姿勢指導や口腔衛生指導に役立て、自分自身の事として取り組めるように工夫する。</p>
<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① キャリア教育を中心に、学校の教育活動全体で、自分の夢や目標をもちそれに向かって努力する大切さや喜びを実感できるようにする。</p> <p>② 文化人の先生や地域の方、保護者との多様なかわりを通して、他者と協力・協働していくことのよさに気付かせ、社会に参画していこうとする心を育てる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.9% 保護者の肯定的回答率 80.0%</p> <p>・学期始めや行事などの機会に、事前に目標を考え、事後に振り返りをする事で、目標をもつことの大切さやそれに向かって努力する喜びを実感することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・キャリアパスポートの活用により、自分の夢や目標を学年に応じて捉えられるよう指導する。 ・キャリアパスポートを定期的に保護者に提示することで、児童の夢や目標に対する思いを共有する。</p>
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 授業を中心に、英語を使ってコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえるよう、指導を充実させる。</p> <p>② 英会話タイムの充実を目指し、年に数回校内研修を行い、教職員の指導力の向上に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.0% 教職員の肯定的回答率 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 ・高学年の教科書の内容も加味しながら、本校ならではの英語に特化した年間指導計画を検討しながら、指導を続けていく。 ・英会話タイム・授業の充実を目指し、来年度も定期的に校内研修を実施する。</p>
<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 社会科を中心に生活科や総合的な学習の時間に、宇都宮市や城山地域の、地理や産業・文化財などについて学ぶ機会を充実させる。</p> <p>② 自分たちの住んでいる地域や、宇都宮のよさを実感できるよう指導していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.8% 保護者の肯定的回答率 68.2%</p> <p>・保護者の肯定的回答率が全質問項目の中で一番低い数字であった。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度から始まる「宇都宮学」を中心に、家庭と連携しながら、宇都宮のよさを実感できるよう指導していく。</p>
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 調べ学習や発展的な内容の学習の時間において、ICT機器や図書資料を有効に活用した活動ができるよう、指導を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 99.0% 保護者の肯定的回答率 87.4%</p> <p>・2～6年生は、1学期はじめに各自名刺づくりの活動をし、パソコンに親しむ機会を設けた。 ・学年によって、調べ学習で Power Point を使った発表を行った。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童自身がコンピュータや実物投影機を操作しての活動を、授業参観等の場面で保護者にも見せることで、授業での ICT 機器の活用状況を知らせる機会にする。 ・全ての学年で、パソコン室を利用している様子を保護者に公開する。</p>

	<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 地域の「古ざくら会」との農園活動・昔遊び・ふれあい給食などを通して、高齢者との交流を、年間を通して深めていく。</p> <p>② 活動の後や「感謝の会」などにおいて、協力してくださることへの感謝の気持ちや、いたわりの気持ちを育むようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.0% 保護者の肯定的回答率 92.6% 地域住民の肯定的回答率 100.0% ・高齢者との交流行事は児童の高齢者に対する感謝やいたわりの心を育むのに効果的であった。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、地域の「古ざくら会」との農園活動・昔遊び・ふれあい給食などの行事を通して、高齢者との交流を充実させたい。</p>
	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 日々自分たちが行っている、ごみの分別・リサイクル・節電・節水や、PTA資源回収などの活動が、身の回りだけでなく地球環境の維持につながっていることを意識させる。</p> <p>② 古賀志山清掃登山や裏山探検などを通して、身近な自然を実感させ、自然の大切さを意識できるような教育活動を展開していく。</p> <p>③ 本校は土砂災害警戒区域内にあることを意識させ避難訓練などで指導を継続していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.9% 教職員の肯定的回答率 81.8% ・今年度の取り組みとして、給食の時間に全学年で分担し、ごみの分別を行うことや、運営委員による節電・節水を呼びかけるポスター作り、全校児童・全職員での落ち葉拾いなど様々な活動を行ってきた。児童も一人一人一生懸命活動することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・教職員が、様々な活動が地球環境の維持につながっていることを意識させることが不十分であったので、発達段階に応じての声掛けや理科や社会、総合の授業などと関連させて指導していく必要がある。</p>
	<p>B1 体力の向上を目指し、進んで活動している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が水泳検定や縄跳び検定等の体力づくりに向けて努力するよう指導を工夫している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 水泳検定、縄跳び検定および、縄跳び大会を実施することで、児童が自らの体力向上を目指し、目標を持って、進んで活動できるようにする。</p> <p>② うつのみや元気っ子プロジェクトミニマム達成に向けて運動プログラム集を活用する。児童の実態を次年度に引き継げるよう情報の共有の仕方を工夫する。</p> <p>③ 地域学校園の課題である「筋持久力」を向上できるよう、サーキットトレーニング等を通して体力の向上を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.9% 教職員の肯定的回答率 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き各種検定への取組や、全校児童による縄跳び大会を実施することで、目標に向かって努力する大切さを指導していく。 ・地域学校園の課題である「投力」「筋持久力」の向上に向け、年間を通して指導しながら体力の向上を図っていく。</p>
<p>目指す学校の</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 特別な支援が必要な児童の実態把握と、校内支援委員会やケース会議、情報交換会などを通じた情報の共有に努め、職員間で連携を図って適切な支援を行う。</p> <p>② 家庭とも連携が図れるよう、適切な保護者対応に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0% ・年間3回の校内教育支援委員会で共通理解を図るとともに、日常的に職員間で連携を図りつつ適切な支援を行うことができた。</p> <p>・年2回の個人懇談の他にも日々保護者と連携を取り、保護者の希望に対して適切な対応に努めることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も全職員で児童の実態把握と共通理解に努めながら、特別な支援が必要な児童が安心して学校生活を送れるように努める。</p>

<p>姿</p>	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童集会等でいじめは絶対ゆるされないことであるという指導を行う。</p> <p>② 教育相談やアンケートを実施し、いじめの起こらない環境づくりを推進する。</p> <p>③ 児童の些細な変化を見逃さないように教職員間で情報を共有し指導にあたるようにする。</p> <p>④ 学校だより等各種たより及び学級懇談会等を活用し、本校のいじめ防止の取組について情報を発信するとともに、各家庭と積極的に児童の様子などを情報交換する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.0% 保護者の肯定的回答率 88.2% 地域住民の肯定的回答率 100.0% ・昨年度同様に比較的高い肯定的回答率であったが、児童と地域住民と、保護者の肯定的回答率に若干の差が見られる。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度はより積極的に児童指導だよりを通して、いじめ対策についての取組状況を保護者へ発信していく。 ・児童の学校での様子、些細な行動の変化、気になる表情など、教職員間だけでなく家庭とも連絡を密に取りながら情報を共有することで、いじめの防止、早期発見につなげていく。</p>
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学級・児童に関する情報交換会を職員会議後に開き、全教職員で情報を共有し、対応について共通理解を図る。</p> <p>② 児童が活躍できる場の設定や、努力やよさを認め励ます教育を推進する。</p> <p>③ 欠席児童に対する、電話連絡や家庭訪問など欠席が長期化しないように、初期対応を徹底する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 99.0% 保護者の肯定的回答率 95.7% 教職員の肯定的回答率 100.0% ・全教職員で情報交換を行うことで児童理解が深まり、共通理解したことを学級経営に生かすことができた。 ・学級活動や「特別の教科 道徳」、帰りの会などの時間を生かし、互いのよさを認め合ったり、クラス全員で関わり合うような活動を設定したりしたことで、自己肯定感を高めることができた。 ・欠席した児童への連絡を確実に遂行することで、情報交換を行い、関係を築くことができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・①～③を結びつけながら学級経営につなげていく。 ・今後も不登校を生まないよう、継続して確実に実施していく。</p>
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 各関係機関と連携し、児童や保護者の実態を把握する。</p> <p>② 必要に応じて、日本語指導や学校生活の適応への支援を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0% ・各関係機関と連携し、児童や保護者の実態を把握することで、特別な支援を必要とする児童等に適切な支援をすることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・本年度に引き続き、各関係機関と連携し、児童や保護者の実態を把握するようにしていき、児童の実態に応じた適切な支援ができるように努める。</p>
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学校生活において、一人一人が生き生きと達成感を実感できるような活動の場を意図的に設け、自己肯定感の向上を図る。</p> <p>② 学校生活の様々な場面で縦割りによる交流活動の時間を工夫し、活動のめあてにあった支援を加えながら異学年でのふれあいの充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.0% 保護者の肯定的回答率 93.7% 地域住民の肯定的回答率 100.0% ・昨年度より保護者の肯定的回答率が微減しているが90%を超える高い評価になっている。 ・児童が休み時間等異学年で誘い合って遊ぶなど、自然に交流する姿が見られる。 ・給食や縦割り清掃などふれあいの機会を意図的に取り入れることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も児童の様々な活動を適切に支援しながら充実させていく。</p>

<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなどきめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 少人数のよさを生かし、一人一人のつまずきに応じた個別指導を行うとともに、習熟度別学習、TT、かがやきルームの活用など学習形態を工夫し、一人一人を大切にした指導に努める。</p> <p>② 朝の学習や昼の英会話タイムを2人体制で行い、一人一人のつまずきに応じた指導を行う。</p> <p>③ 分かる授業の実現に向けて、学習のめあてや振り返りを大切に扱い、ペア学習やグループ学習など学習形態を工夫する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 99.0% 保護者の肯定的回答率 93.3% 教職員の肯定的回答率 100.0% ・児童、保護者、教職員の肯定的回答が市の平均を上回った。 ・朝の学習や習熟度別学習、TT の活用により、個々の児童の特性をとらえ、適切な支援が行なっていた。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も児童理解を図りながら、適切な指導及び支援が行えるよう、教職員間で連携をはかっていく。</p>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 専門的な業務において、学校図書館司書、AET、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携・協働しながら業務を進めるように努める。</p> <p>② 教職員が教育活動において役割分担などを見直し、同僚性を発揮しながら取り組めるようにする。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0 % ・学校図書館司書、AET、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携・協働しながら業務を進められた。 ・教職員が役割分担などを見直しながら、同僚性を発揮し、教育活動に取り組んできた。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き学校に関わる職員全員がチームとなり、より充実した教育活動を行えるように協力して業務に取り組んでいく。</p>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 出退勤の記録を付けることで勤務時間について意識する。</p> <p>② PDCAサイクルによる教育課程の振り返りや、学校行事の精選、反省に基づくスリム化・効率化につながる改善を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 95.5% ・出退勤の記録を付けることで勤務時間について意識して業務に取り組んでいた。 ・PDCAサイクルによる教育課程の振り返りを行い、学校行事の精選、反省に基づくスリム化・効率化につながる改善を図れるよう情報を集め、次年度の計画に活かせるようにしている。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き教職員が勤務時間を意識して、業務に取り組んだり、効率化を図ったりできるよう取り組んでいく。</p>
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が連携した取組を主体的に行っている。」 ⇒保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 小中合同あいさつ運動、小中乗り入れ授業、6年生の中学校訪問など小中合同で行う取組を確実に実施し、活動の様子を各種便りやホームページで公開するよう努める。</p> <p>② 地域学校園内での各校の学校課題等の研修に積極的に参加し、協力して研修を進めていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.6% 保護者の肯定的回答率 90.1% 地域住民の肯定的回答率 94.7% 教職員の肯定的回答率 100.0% ・乗り入れ授業や中学校訪問など児童にとって中学校を知るためや中学校の先生に6年生の児童のことを知ってもらうために効果的な活動であった。 ・一昨年度、昨年度と少しずつ保護者の肯定的回答率が上がってきている。今後も活度の様子を周知していく。</p> <p>【次年度の方針】 ・限られた機会に有効な活動が行えるように、内容の検討やその他の連絡調整を行っていく。 ・引き続き地域学校園の各校の校課題等の研修に積極的に参加し、協力して研修を進めていくようにする。</p>

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域コーディネーターを中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。</p> <p>② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の人々を積極的に講師として迎え入れた活動を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.9% 保護者の肯定的回答率 96.8% 地域住民の肯定的回答率 100.0% 教職員の肯定的回答率 100.0% ・今年度も地域コーディネーターを中心に各種ボランティアにご協力いただき、学校のより良い教育環境づくりができた。各教科、文化人の先生方の授業などにご協力いただき、円滑に活動できた。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き地域コーディネーターを中心として協力いただき、教育環境や教育活動の充実を図っていく。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 孝子桜まつり・古賀志山清掃登山・地域合同運動会などの行事を、学校・保護者・地域が連携して実施する。</p> <p>② 地域コーディネーターを中心に学校を支援するボランティアを募り、<u>学校・家庭・地域との連携、協力を深め、開かれた学校づくりに努める。</u></p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.9% 保護者の肯定的回答率 96.8% 地域住民の肯定的回答率 100.0% 教職員の肯定的回答率 100.0% ・地域と一緒にを行う行事では、実行委員会や文書などの連絡を通して、学校・地域・保護者が協力し連携し合って実施してきた。 ・地域コーディネーターと連絡をとり、学校を支援するボランティアを募り、様々な協力をしていただいていた。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も継続していけるよう地域コーディネーターと協力・連携し、開かれた学校づくりを推進していく。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童や利用者が安全に利用できるよう、毎月の安全点検を確実に実施し対応が必要なところは、迅速に処理する。</p> <p>② 学校施設利用者や保護者へ、来校時の安全面での注意点やAEDの設置場所の周知、災害時の避難など危機に対応できるよう情報を提供する。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答率 97.8% 地域住民の肯定的回答率 100.0% 教職員の肯定的回答率 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も安全点検を実施するとともに、不具合に気付いた時には、迅速に対応する。 ・ホームページや各種お便り、学級懇談会等を活用し、万が一に備えた安全に関わる情報を提供する。</p>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① ICT機器や実物投影機・パソコンなどや、児童が活動で使う図書資料等を準備する。</p> <p>② ICT機器や図書資料を、授業等で児童が使用しやすくし、十分に活用できるよう、情報を提供したり、校内研修を行ったりする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 99.0% 保護者の肯定的回答率 87.4% 地域住民の肯定的回答率 100.0% ・ICT 機器や実物投影機が各教室に配置され、活用された。</p> <p>【次年度の方針】 ・ICT 機器や図書資料等を適切に管理するとともに、必要なものは適宜整備する。</p>



	<p>B2 学校は、読書活動を積極的に推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校の読書は充実し、教職員は子供たちが読書に興味を持つように指導を工夫している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 読書活動の充実を図るために、朝の読書タイムを充実させ、読み聞かせボランティア等による読み聞かせなどを行う。</p> <p>② 教科や総合的な学習等、学習と関連のある図書を意識的に紹介し、様々なジャンルの本への興味づけを行う。</p> <p>③ 図書館便りを更に充実させ、読み聞かせの様子や読書活動の重要性を保護者へも知らせる。</p> <p>④ 学年毎に家庭と連携した読書リレーを実施し、クラス全員で同じ本を読み、親子で本に親しむ機会を作る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.9% 保護者の肯定的回答率 96.7%</p> <p>・読書週間で行った読書ビンゴでは、普段借りにないジャンルの本にもチャレンジする児童が多く見られた。</p> <p>・ベストリーダー賞を目標に、読書量を増やそうと頑張る児童が多かった。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、学年ごとの読書リレーを通じ、親子で本に親しむ習慣をつけるよう働きかける。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B3 日本語や英語を使ったコミュニケーション能力を高めるための指導を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が日本語や英語を使って進んで表現したりコミュニケーションしたりできるよう指導を工夫している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 英語や日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすために独自の会話科・外国語活動の年間指導計画について、必要に応じて内容の精選・検討をしていく。</p> <p>② 英会話タイムの充実と継続を全校体制で行う。</p> <p>③ 「英会話の時間」「外国語活動」については、教科化による、中学校へのつながりを意識した研究を推進する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.9% 教職員の肯定的回答率 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 ・会話科・外国語活動の年間指導計画を再検討していく。</p> <p>・今後もAETを中心に、英会話タイムの充実を図っていく。</p> <p>・地域学校園での学力向上部会で挙げた課題(bとdの区別など)をもとに、中学進学を見据えた指導を継続して行っていく。</p>
	<p>B4 学校と地域・文化人と連携した学校教育活動を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、保護者や地域住民・文化人と連携、協力した教育活動に積極的である」 ⇒保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域コーディネーターを中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。</p> <p>② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の人々を積極的に講師として迎え入れた活動を行う。</p> <p>③ 豊かな感性を育てるため、芸術・文化の分野で活躍されている文化人の先生方による授業を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.9% 保護者の肯定的回答率 100.0% 地域住民の肯定的回答率 100.0% 教職員の肯定的回答率 100.0%</p> <p>・地域協議会の地域コーディネーターを中心に、地域や保護者と連携させながら活動を展開してきた。</p> <p>・豊かな感性を育てるため、芸術・文化の分野で活躍されている文化人の先生方による授業を行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き学校と地域・文化人と連携した学校教育活動を推進していく。</p>

<p>B5 給食農園へのかかわりや農業体験学習を行い、食育指導との連携を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「農業体験活動を通して、大地の恵みに感謝する心を育てると共に食育の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 給食農園で地域の方との連携を深め、活動を充実させることで、食に対する関心を高めたり、感謝の心を育成したりすることを目指す。</p> <p>② 地域の食材を積極的に利用し、安全でおいしい給食や特色ある給食を実施する。</p> <p>③ 清掃時に学年ごとに給食農園の草取りや収穫を行うことなど食農体験を通して、感謝の気持ちを育て、食農教育の充実を図る。</p> <p>④ 食育だより・給食だより・保健だよりを充実させ、保護者へも啓発していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.0% 保護者の肯定的回答率 100.0% 地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <p>・今年度も、給食農園や地産地消の食材を使った献立を作成し、安全でおいしい給食を実施することができた。</p> <p>・児童が収穫したものや地域で採れた食材を給食の時に紹介することで、愛情をもって食べることができた。</p> <p>・縦割り班清掃時や全校行事で給食農園の草取りや収穫を行った。また、なかよし田んぼで田植えや稲刈りを地域や保護者のボランティアとともにやり、収穫したもち米を給食で食べることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、給食農園やなかよし田んぼで地域の方々と保護者と連携を深め活動を充実させるとともに、食農体験を通じて食に関する関心を更に高め、食育教育を充実させたい。</p>
---	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

総合的にみると、30項目うち29項目で数値指標を達成することができた。また、全市で共通の25項目のうち24項目で市の平均より数値が上回っている部分があり、望ましい状況である。

児童の評価では、全項目で数値目標を達成しており、児童が学校運営や学習指導を肯定的にとらえるとともに、主体的積極的に学校生活を送っているものと考えられる。保護者の評価では、22項目のうち21項目、地域住民の評価でも、13項目全項目が数値目標を達成しており、学校の取組や児童の学習、生活状況に対して、肯定的な評価がなされている。

特に達成度の高い項目（達成度95%以上）として、児童アンケートでは、「学校に活気があり、明るくいいきとした雰囲気」、「不登校を生まない学級経営」、「いじめが許されない行為であることをしっかり指導する姿」、「児童間や高齢者の対する思いやりや感謝の心」、「教職員の分かりやすい授業やきめ細やかな指導」、「ICT機器や図書等の活用状況」、「農業体験活動を通して大地の恵みに感謝し食育の充実」、「英語を使ったコミュニケーションをはじめとする会話科の充実」など13項目にあり、教職員の一人一人を大切にしたい関わりや、学習指導を中心とした取組が児童に評価されている。

保護者アンケートでは、「不登校を生まない学級経営」、「地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開」、「家庭・地域・企業との連携」、「安全に配慮した環境づくり」、「読書指導」、「文化人の先生方と連携した教育活動」、「農業体験活動を通して大地の恵みに感謝し食育の充実」等7項目となっており、本校の小規模特認校としての取組を評価していただいていると思われる。地域住民アンケートでも、児童・保護者と同様の項目をはじめ「農業体験活動を通して大地の恵みに感謝し食育の充実」の小規模特認校の継続を中心に13項目中9項目が達成度100%となっており、学校の取組を評価していただいている。

昨年度と比較できる項目で達成度が向上した項目は、昨年度課題であった「学校の読書活動への取組」で、保護者の評価が17.7ポイント向上した。児童の評価では、「決まりを守った生活」が4.8ポイント、「農業体験活動を通して大地の恵みに感謝し食育の充実」が3.0ポイントそれぞれ昨年度の結果より向上した。

本校の重点目標である「会話科」「食農教育」「文化人の先生方との特色ある活動」の具体的な取組については、すべての項目で肯定的な評価をいただくことができた。学校の取組みが保護者や地域にも理解されていると考えられる。

今年度、肯定的回答率が設定した数値指標に満たなかった項目、次年度改善や充実をさせたい項目は、下記のとおりである。

◇ 肯定的回答率の低かった質問項目

「児童生徒は宇都宮のよさを知っている。」【保護者】数値目標 80% 肯定的回答率 68.2%

〈改善に向けた基本方針〉

保護者の回答率は、数値目標の80%に届かなかった。児童の肯定的回答率も、87.8%と他の項目と比べると高くはない。低学年児童はまだ、住んでいる地域と宇都宮市との違いについて認識できていない児童もみられる。来年度から宇都宮学も始まるので、社会科を中心に総合的な学習の時間や生活科などで、宇都宮市や地域について、発達段階に応じて触れたり、学んだりする機会を充実させていく。また、それを校内に掲示したり学年だより等で保護者に知らせたりし、啓発を図っていく。

◇ 昨年度に比べて肯定的回答率が下がった質問項目

「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」【保護者】86.3% 昨年度より-4.7% 【地域】95.2% 昨年度より-4.8%

〈改善や充実に向けた取組〉

あいさつについては、どの回答者からも数値目標を超える肯定的回答率であった。しかし保護者と地域の肯定的回答率は昨年度より下がっているが、児童はわずかに上がる結果となった。「いつでも・どこでも・だれにでもさわやかなあいさつ」の城山地域学校園での合言葉のもと児童会を中心としたあいさつ運動を本校としてより充実させたい。朝と帰りの決められたあいさつはとてよくできていると

思われるので、それ以外の具体的な場面を想定した指導を行い、時と場に応じたあいさつや返事ができるようにしていきたい。さらに、強化週間を設定し、家庭にも伝えることで、家庭と連携しながら取り組んでいきたい。

## 7 学校関係者評価

全体的に見て肯定的回答の割合が高く、保護者、地域ともよい傾向である。

〈あいさつについて〉

- ・保護者の割合が下がっているのは、親として厳しく見ているからではないか。自分の子供だとできていないように感じてしまうこともあるだろう。親を見て子ども育つので自分たちも反省しなければと感じた。
- ・登校班で朝あいさつをしているかという点、できていない子もいる。朝のルーティンとなっている職員室・校長室でのあいさつ以外の場でも自然にできるようになるとよい。
- ・「あいさつが大切」と思っていないのではないか。自発的でないように感じる。大人になっても大切なことであるので、きちんと伝えていきたい。
- ・気持ちの良いあいさつができないと、相手はどう感じるのか考えさせることも必要ではないか。連帯感が強いことで、一人がしないと、みんながしないというマイナスに出てきてしまっていることもあるかもしれない。
- ・子供よりも大人が先にするようにしたらどうだろうか。
- ・家庭に知らせ、連携を図っていくことが必要である。

〈英語について〉

- ・他校と同じように教科書を使うようになると、英語に力を入れている城山西小の特徴が薄まってしまわないか。
- ・英語を教える狙いは、「会話ができるようになること」であると思う。教科書の指導で大丈夫なのか。
- ・子供たちが英語が好きになるように、まず教職員ができるようにならなくてはならないだろう。
- ・英語の研究もレベルアップが必要になるのだろう。

〈宇都宮学について〉

- ・宇都宮しか知らないのに宇都宮のよさというのは難しいだろう。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

次年度へ向けて次のような方策を考えている。

### 1 基礎的・基本的内容の確実な習得とそれらを活用する力・コミュニケーション能力の育成

- ・分かる授業の工夫（ペア学習やグループ学習など学習形態の工夫）
- ・基礎基本を徹底する時間及びそれらを活用する力を伸ばす時間の設定（TTによる一斉指導等の学習の時間の充実）
- ・相手を意識した会話科「ことばの時間」の充実と他教科・領域との関連
- ・「英会話の時間」「外国語活動」「外国語科」の中学校への学びの連続性を持たせる指導についての研究推進継続

### 2 食農教育の継続・充実

- ・食と農に関する学習活動・体験活動の展開（給食農園・なかよし田んぼ・地域ボランティアとの連携）
- ・食育の充実（ランチルーム給食・お弁当の日の活用）
- ・給食の様子の家庭への情報発信と連携

### 3 運動に親しもうとする態度や能力の育成

- ・体力づくり（体幹を鍛える運動の継続・体育でのサーキット運動）
- ・たくましい心と体の育成（各種検定の充実・うつのみや元気っ子プロジェクトへの参加・群れ遊びの奨励）

### 4 児童指導の充実

- ・児童のよさをほめる場の設定
- ・児童が互いのよさを認め合う場の設定
- ・学級活動、特別の教科道徳の充実
- ・いじめ防止に関する積極的な情報の発信（具体的な取り組みの紹介、いじめに関するアンケート結果、教育相談の結果等）
- ・不登校を生まない支援の充実
- ・家庭や地域との連携（相手を尊重し、適切な言葉遣いができるような指導）

### 5 家庭との連携強化

○あいさつ（学校で、家庭で、地域ぐるみで、城山地域学校園であいさつ運動の推進）

- ・家庭学習の定着（家庭学習スタンダード・自主学習）
- ・読書のすすめ（家読の励行・読書リレーの継続）
- ・学校での読書活動の様子について家庭への情報発信の充実

